

平成 22 年度 第 6 回公益財団法人新宿未来創造財団理事会議事録

1 日 時 平成 23 年 3 月 29 日 (火) 15 時から 16 時

2 会 場 新宿コズミックセンター 大研修室

3 出席者 理事現在数 12 名 定足数 7 名

[理事出席者]

理事長 中山 弘子	副理事長 酒井 敏男	常務理事 小野寺 孝次
理事 石崎 洋子	理事 岡田 芳朗	理事 佐藤 洋子
理事 清水 敏男	理事 白井 裕子	理事 武井 正子
理事 原田 宗彦	理事 平田 達	以上 11 名

[監事出席者]

監事 小柳 俊彦	監事 名倉 明彦	以上 2 名
----------	----------	--------

[同席者]

事務局次長 諏訪 丹美	主幹 藤牧 功太郎
-------------	-----------

欠席者 [理事欠席者]

理事 新田 満夫	以上 1 名
----------	--------

出席職員 23 名

4 議題

(1) 議事事項

議案第 36 号 公益財団法人新宿未来創造財団業績係数 (案) について

5 定足数の確認

理事現在数 12 名中 11 名の出席があり、理事会運営規程第 7 条の規定により、理事会は有効に成立していることを確認した。

6 議事の経過の概要及び結果

理事会運営規程第 6 条の規定に基づき、中山理事長が議長となり、本会議の開会を宣し、議事に入った。

(1) 議案第 36 号 公益財団法人新宿未来創造財団業績係数 (案) について

事務局次長より議案第 36 号について、資料に基づき説明が行われた後、質疑が行われ、原案通り出席者全員一致で可決した。

(議事の詳細・経過については、後出の理事会議事録のとおり。)

以上、この議事録が正確であることを証明するために、出席した理事長および副理事長ならびに監事は次のとおり署名する。なお、軽易な文言の修正は、理事長に委任する。

平成 23 年 3 月 29 日

理事長 中山 弘子

副理事長 洒井 敏男

監事 小柳 俊彦

公益財団法人新宿未来創造財団第6回理事会
議事録

平成23年3月29日

○中山理事長 ただいまから平成22年度第6回公益財団法人新宿未来創造財団理事会を開催いたします。これより議事に入ります。議案第36号公益財団法人新宿未来創造財団業績係数（案）について事務局から説明を受けます。

<資料に基づく説明省略>

○中山理事長 ご意見、ご質問のある方はお願いします。

○平田理事 資料の見方並びに留意点等について説明をしてください。

○諏訪事務局次長 まず、算定の係数算出表が上のA4の用紙でございます。こちらで経営効率の改善と収益の拡大、利用者数の増加、参加者・利用者の満足度の向上の4点に絞って数値を出しております。

まず人件費の最適配分ですが、財団全体の人件費をまとめて、純粋に予算水準と決算水準で比較しています。

単位費用の縮減については、A3の用紙をご覧ください。単位費用の達成率が書いています。これは各事業の人件費を除いた単位費用、つまり事業費を参加者等で割って、1参加者当たりにならざる費用がかかっているかを算出しています。このうち、丸のついている事業がその対象になっているということで、黄色の経営収益の向上という欄がありますが、これは黄色の数値を根拠にしています。

それから、緑色になっていますのが、事業参加者数の増加、施設利用者の増加でして、緑色がかかっているところの数値を参考にしています。

評価点の増加、参加者・利用者の満足度の向上といった4番のところですが、こちらは水色がかかっている数値を参考にしています。

それぞれの事業について、仮決算の段階で評価指標とするものを定めており、例えば収益の増加を評価するもの、単位費用の縮減を対象とするもの、それから満足度を評価の対象にするもので、対象にしたものについては丸をつけております。

なお、満足度については、事業のアンケート調査を行っており、そのアンケート調査を主たる根拠として評価点をつけています。

○小柳監事 A4の表について、達成率が評価とつながっています。115%以上120%未満は評価がSになっているのですが、実際の評価の中で145%とか125%とかがあります。達成率は115%以上はSということで、120%未満という表現はよくないのではないかと思います。

○小野寺事務局長 ここで達成率について、120%を上限にしてありますが、これは未満ではなくて115%以上ということだけを残してS評価というのが正しい表記だと思いますので、そのとおり改めさせていただきます。

○原田理事 人件費の最適配分、すなわち固定費の抑制と4番の参加者・利用者の満足度の向上という、お互いに相入れない評価項目がここに入っています。両方達成するのがベストの選択なのですが、そこで齟齬とか矛盾は生まれませんでしたか。すなわち、人件費の最適配分の達成率が高いほど、満足度が落ちているようなケースはなかったでしょうか。

○諏訪事務局次長 参加者・利用者の満足度の向上と人件費での矛盾は、現在の段階では出ておりません。あと2、3のものにつきましては、人件費の数値を単位費用には入れていないということでして、満足度についても先ほど申し上げたのですが、アンケート調査等を主にしており、現在、比例もしていないですが、反比例もしていないという状況です。

○小野寺事務局長 矛盾ということではないのですが、ある特定の事業に人件費が前年度に比較して多くかかったところが必ずしもいい評価につながっていないという事例もありますし、いろんな努力した中で、人件費の抑制をしたけれども、事業の規模並びに満足度、両方とも伸びているという事業等もあり、人件費と評価の相関関係は必ずしもないということが言えるかと思います。

○原田理事 担当者という、個人のパフォーマンスを上げればそれでカバーできるわけなので、ぜひその方向性で頑張ってくださいと思います。

○中山理事長 それでは、ご発言がなければ質疑を終了いたします。

議案第36号、公益財団法人新宿未来創造財団業績係数（案）についてを原案どおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○中山理事長 ありがとうございます。

それでは、異議なしと認め、議案第36号は原案どおり決定いたします。

これをもって公益財団法人新宿未来創造財団の理事会を閉会といたします。ありがとうございました。